

## 文部科学省 共同利用・共同研究拠点

立命館大学アート・リサーチセンター 日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点  
2014 年度 共同研究成果報告書

2015 年 4 月 28 日 提出

1. 研究課題名	
デジタル・アーカイブ手法を用いた近代染織資料の整理と活用 (英文標記: Organization and Utilization of Modern Printed Textile Research Materials through the Method of Digital Archiving)	
2. 研究代表者	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
青木 美保子(あおき みほこ)	京都女子大学・准教授
3. 研究分担者 (合計: 4 名) ※アート・リサーチセンター所属者は、「ARC 所属教員欄」に○印を付してください	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
並木誠士(なみきせいし)	京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科・教授、同大美術工芸資料館・館長
鈴木桂子(すずきけいこ)	衣笠総合研究機構・教授
山本真紗子(やまもとまさこ)	日本学術振興会・PD
加茂瑞穂(かもみずほ)	衣笠総合研究機構・PD
4. 研究課題の概要(300 字程度) (申請書から変更がある場合は、変更点分かるように明記してください)	
<p>本研究は、学術資料として組上に上がっていない近代染織史に関連する資料の整理・蓄積をすすめるものである。現在、近代染織史を研究するための資料は散在し、かつ未整理のものが大半であり、基礎的な資料調査が必要不可欠な段階にある。しかしながら、近代の染織産業については聞き取り調査もまだ可能、かつ研究手法の有効な手段であり、文献資料には残らない情報を今なら収集することができる。</p> <p>そこで、本研究では、近代染織研究に必要な資料整理や調査を進めつつ、資料・情報を蓄積していく場を構築し、情報技術を駆使してその共有化を進める。この資料・情報の整理・蓄積・共有化は、染織研究関係者と染織業従事者へ新たな交流の場を提供することとなり、延いては染織業の活性化を模索する足掛かりとなるであろう。</p>	

## 5. 研究成果の概要 (この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります)

**聞き取り調査**

京都市内を中心に、染織業従事者及び染織資料蒐集家に聞き取り調査を実施した。

1. 菌部染工 京都市内において「墨流し染」をおこなう菌部染工へ訪問調査を実施した。作業工程の動画撮影、染見本の撮影、染見本をもとにした染色技法に関する聞き取り調査を実施した。
2. 株式会社マドレー 近代に入って新たに開発された墨流し染めの流れを汲むマドレー染の資料を保存する株式会社マドレーへ訪問、調査を実施した。染見本をもとにした染色技法に関する聞き取り調査と染見本やキモノのデジタル化のための基礎調査を進めた。
3. 悠々亭(個人コレクション) 大阪市の染織資料蒐集家の元を訪問調査し、近世後期から現代までの型染めのキモノ・布帛(綿・絹)、型友禅のキモノ、長襦袢などのコレクションを見学し、染織技法に関わる聞き取り調査を実施した。
4. 株式会社キョーテック・株式会社キョーエース 戦前から型染め用の型を生産している同社へ訪問、調査を実施した。工場内部の見学、戦後京都の染織産業の変遷や染織技法に関する聞き取り調査を進めた。

**研究資料の整理**

『染織日出新聞』の記事見出し一覧の作成を進めた。染織日出新聞は、戦前の染織産業に関わる情報を定期的に発信し、当時の様子を詳細に知ることのできる一次資料である。

## 6. 研究業績

## (1) 著書

## 【共著】

①河野元昭監修、奥平俊六・中部義隆・玉蟲敏子・並木誠士著『年譜でたどる琳派 400 年』、淡交社、担当頁 pp.76-99、2015 年 1 月

## (2) 論文

## 【査読有 単著】

②加茂瑞穂「型紙コレクションのデジタル・アーカイブとその効用」『アート・ドキュメンテーション研究』22 号、アート・ドキュメンテーション学会、採録決定

③加茂瑞穂「型紙コレクションにみる文様の傾向と比較—吉岡コレクションを例として」『アート・リサーチ』15 号、立命館大学アート・リサーチセンター、pp.51-59、2015 年 3 月

## 【査読無 単著】

④青木美保子「現代の墨流し染—現代の名工 菌部正典の技に注目して—」『生活造形』60 号、京都女子大学生活造形学、pp.55-60、2015 年 2 月

⑤山本真紗子「百貨店の着物図案と日本美術史学研究—高島屋百選会趣意書にみる本阿弥光悦論」『美術フォーラム 21』vol.29、醍醐書房、pp.142-146、2014 年 5 月

⑥山本真紗子「近代染織図案データベースの作成と課題」赤間亮・鈴木桂子・八村広三郎・矢野桂司・湯浅俊彦編『デジタル・ヒューマニティーズ 文化情報学ガイドブッカー—情報メディア技術から「人」を探る』勉誠出版、pp.162-165、2014 年 11 月

⑦鈴木桂子「きもの文化とその研究の海外発信」『平成22 年度～平成26 年度「私立大学戦略的基盤形成支援事業」研究成果報告書 京都における工芸文化の総合的研究』、pp.98-100、2015 年 3 月

## (3) 研究発表等

⑧Masaaki Kidachi, Masako Yamamoto, and Keiko Suzuki “Yuzen Designs and Privacy,” “Privacy and Surveillance in the Digital Age,” 2nd Around the World Conference, Arts and Convocation Hall, University of Alberta, 2014 年 5 月 21 日 <http://aroundtheworld.ualberta.ca>

⑨加茂瑞穂「型紙コレクションのデジタル・アーカイブとその効用」JADS 第7 回秋季研究発表大会、お茶の水女子大学、2014 年 11 月

⑩Keiko Suzuki. “Folklore’s Narrativity and Popular Imagery: A Case Study of Otohime,” Joint ARC RITS - JRG HPU Research Workshop on Degrees of Narrativity in the Japanese Visual Tradition, Hawai’i Pacific University, 2015 年 1 月

## (4) 主催したシンポジウム・研究会等

⑪展覧会「分業から協業へ—大学が、若冲と京の伝統工芸を未来に繋げる—」京都文化博物館別館ホール、会期:2014 年 7 月 12 日-13 日、来場者 約 1700 名

⑫シンポジウム「つたえる力—京都の伝統工芸—」、立命館大学朱雀キャンパス多目的室、2014 年 10 月 13 日、来場者約 40 名

⑬国際シンポジウム・シリーズ「つたえる力 2」 工芸研究とデジタル・ヒューマニティーズ、立命館大学衣笠キャンパス末川記念館、2015年2月22日、来場者約50名

(5)その他研究活動(報道発表や講演会等)

(6)受賞学術賞

(7)科学研究費助成事業

(8)競争的資金等(科研費を除く)

⑭「服飾意匠に描かれたイメージとその変容—近世後期の浮世絵を中心として」、立命館大学研究推進プログラム(科研費連動型)、2014年7月-2015年3月、研究代表者(加茂瑞穂)

(9)その他

【データベース構築】

⑮「立命館大学京都近代染織資料データベースプロジェクト」〈<http://www.dh-jac.net/db15/yuzen2013/>〉

⑯「型紙データベース」〈<http://www.dh-jac.net/db1/stencil/about.php>〉

⑰「図案データベース」〈<http://www.dh-jac.net/db1/zuan/>〉(一般非公開)

⑱「染織日出新聞データベース」(β版)〈<http://www.dh-jac.net/db/senshoku/search.php>〉(一般非公開)